

2

人間ドック

1 調査目的

がん検診における発見がん患者の精密検査結果の詳細を把握することにより、検診の評価を行い、精度管理の維持・向上を図る。

2 調査対象

平成26年度の人間ドックにおける胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診受診者のうち、精密検査結果が「がん」または「がん疑い」と報告のあった者。

3 調査内容

調査内容は、当事業団が実施した胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺の各がん検診における発見がん患者の精密検査結果および治療状況等とし、各がん取り扱い規約に基づいた内容について更なる詳細結果（報告）を求めた。

1] 取得方法

調査依頼先に対象者の発見がん追跡調査票を書留にて郵送し、回収した。

2] 調査依頼先

対象者の精密検査結果報告が提供された医療機関、または紹介先医療機関

3] 調査期間

初回調査：平成27年9月～10月

再調査：平成27年11月～12月

再調査は、以下の場合に実施

(1) 初回調査の結果、転院が判明した者

(2) 初回調査後、新たに精密検査結果が「がん」または「がん疑い」で戻ってきた者

平成26年度人間ドックにおける発見がん追跡調査結果

平成28年1月31日現在

1 がん検診別発見がん追跡調査結果

	胃がん		肺がん		大腸がん	子宮頸がん	乳がん	前立腺がん	腹部超音波	甲状腺がん
	X線	内視鏡	X線	CT						
受診者数	8,504	2,051	10,514	771	11,281	2,960	3,429	1,798	11,621	562
要精検者数	529	117	70	5	485	103	283	62	333	36
要精検率	6.2	5.7	0.7	0.6	4.3	3.5	8.3	3.4	2.9	6.4
精検受診者数	360	88	60	4	294	72	247	36	203	30
精検受診率	68.1	75.2	85.7	80.0	60.6	69.9	87.3	58.1	61.0	83.3
追跡調査数	14	5	8*	1*	2	1	13	9	6	4
追跡回収数	14	5	8	1	2	1	13	9	6	3
追跡調査回収率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	75.0
確定がん数	11	4	3	1	0	0	11	1	3	0
がん発見率	0.13	0.20	0.03	0.13	0.00	0.00	0.32	0.06	0.03	0.00
早期がん数	7	4	3	0	0	0	8	1	3	0
早期がん割合	63.6	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	72.7	100.0	100.0	0.0
陽性反応適中度	2.1	3.4	4.3	20.0	0.0	0.0	3.9	1.6	0.9	0.0

*最終読影の結果がん以外で要精検となった者の4名（X線：3名、CT：1名）は除く

(参考) がん検診に関する事業評価指標と許容値及び目標値

(がん検診の事業評価に関する委員会報告書より)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
精検受診率	許容値	70以上	70以上	70以上	70以上	80以上
	目標値	90以上	90以上	90以上	90以上	90以上
要精検率(許容値)		11.0以下	3.0以下	7.0以下	1.4以下	11.0以下
がん発見率(許容値)		0.11以上	0.03以上	0.13以上	0.05以上	0.23以上
陽性反応適中度(許容値)		1.0以上	1.3以上	1.9以上	4.0以上	2.5以上

2 まとめ

平成26年度より胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、前立腺がんに加えて、腹部超音波検査、甲状腺がんにおける追跡調査を実施した。

平成26年度の各がん検診の精検受診率は、胃がん検診は内視鏡検査75.2%に対してX線は68.1%と前年度64.7%よりは改善されているものの、がん検診事業評価指標で示している許容値を満たしていなかった。肺がん検診のX線検査は前年度79.1%に対し今年度は85.7%と改善され、CT検査も前年度の70.8%に対し今年度は80.0%と改善された。大腸がん検診は60.6%と低く、平成23年度から人間ドック受診時に医師の診察後、保健師より受診勧奨（精密検査医療機関登録名簿による医療機関の紹介等）を行っている。子宮がん検診は、前年度63.7%に対し今年度は69.9%と改善されているものの、がん検診事業評価指標で示している許容値を満たしていなかった。乳がん検診は、前年度81.1%に対して今年度は87.3%と改善され、がん検診事業評価指標の目標値に近づいた。前立腺がん検診は58.1%と低いため、平成27年度より大腸がん検診同様、人間ドック受診時に医師の診察後、保健師からの受診勧奨を始めた。腹部超音波検査は61.0%、甲状腺がん検診は83.3%であった。

精検受診率は前年度に対して改善傾向ではあるが、精度管理の向上を図るために、がん検診事業評価指標の目標値90%を目指して受診勧奨の強化を検討していきたい。

胃がん検診におけるがん発見率、陽性反応適中度はがん検診事業評価指標の許容値を満たしていた。肺がん検診のがん発見率は、X線検査では前年度0.01%に対し今年度は0.03%と改善され、CT検査では0.13%とがん検診事業評価指標の許容値を満たしていた。乳がん検診におけるがん発見率、陽性反応適中度は、がん検診事業評価指標の許容値を満たしていた。MMG+US併用方式において、MMGとUS両方で発見されたがんは7人中4人、MMGのみは0人、USのみは7人中3人であった。腹部超音波検査のがん発見数は3人でいずれも早期がんだった。大腸がん検診、子宮頸がん検診、甲状腺がん検診におけるがん症例は0人であった。